

【歯科部会】成人期における定期的な歯科受診への促進策について

1 成人期全体

現状の取組 ねらい・実績	・歯周病検診の実施（健康増進法に基づき実施） - 対象：節目年齢も含む 20 歳から 74 歳まで - 受診勧奨：20 歳、40 歳、妊婦への個別勧奨を実施 【ねらい】 かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科検診を受診するきっかけづくりをする。 【実績】 ・歯周病検診受診者は増加傾向。令和 2 年度は 243 人受診。
評価および課題	歯周病検診受診者全体数は増加傾向であるが、その後、検診を受診した歯科医院がかかりつけ歯科医となり定期的な受診に繋がったかの評価が困難である。
今後の方向性	歯周病検診の受診をきっかけに継続受診ができているか確認するために、1 年後に受診状況アンケートを実施。

2 ハイリスク者

現状の取組 ねらい・実績	・糖尿病発症リスクの高い人（非肥満で HbA1c5.6%～6.5%）への歯科受診啓発 【ねらい】 歯周病と糖尿病は相互に関係があるため、啓発による定期的な歯科受診を促し、糖尿病発症リスクを減らす。 【実績】 特定健康診査受診者のうち糖尿病発症リスクの高い人 1,139 人へ生活習慣の見直し等を促すリーフレットとともにチラシを配付
評価および課題	糖尿病発症ハイリスク者（主に 40 歳代以上）への受診啓発の効果が不明確。検診ではなく医療として受診している可能性がある。（要分析）
今後の方向性	糖尿病と診断されている人が医科を受診した時や薬局で薬を処方された際に歯科受診啓発を実施。

3 歯科受診困難者

現状の取組 ねらい・実績	・ 広報、有線放送、すこやかセンターだより等での歯科受診啓発 ・ 在宅歯科診療・相談連絡票や口腔アセスメントシートの活用 ・ デイサービス等での健康教育の実施 【ねらい】 ・ 口腔衛生の維持、歯科疾患の早期発見・早期治療の必要性の周知 ・ 関心が低い層の歯科保健意識の向上 ・ 歯科以外の本人を取り巻く専門職種の人が歯科相談をしやすい体制づくり 【実績】 数値的なもので評価する指標が整っていないため、実態が不明確。
評価および課題	(これまでの協議会等での意見より) ・ 本人や家族の歯科保健に対する優先順位が低く、受診の必要性を感じてないと考えられる。 ・ 保険制度等（介護保険、医療保険）が複雑なため、料金などが不明瞭となり、受診に繋がりにくい。
今後の方向性	・ 障害者への啓発は手帳の交付時、更新時などの機会で行う。 ・ 元気な時から（要介護となる前から）積極的な啓発を行う。 ・ 歯科受診の必要性だけでなく制度等についても発信し、受診へのハードルを下げる。